

平成 30 年 2 月 26 日

厚生労働省
医政局看護課長 様

一般社団法人全国保健師教育機関協議会
国家試験委員長 坪川 トモ子

第 104 回 保健師国家試験の出題内容について

時下、ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。

日頃から、保健師教育にご配慮いただき、厚くお礼申し上げます。

また、全国保健師教育機関協議会の活動の特段のご理解ご協力を賜り、感謝しております。

さて、2 月 16 日に行われました第 104 回保健師国家試験について、当協議会
会員校から寄せられた意見を集約し、別紙の通り検討しましたので、お届けい
たします。

是非、ご検討いただけますよう、お願い申し上げます。

I 不適切問題

問題番号	理由	コメント
【午前】 問題 20	正答がない	「特定業務従事者の健康診断」は、6ヶ月以内毎に実施する一般健康診断であり、3ヶ月毎に実施するものはない（労働安全衛生法第66条1項、2項）。 「特殊健康診断」について問うのであれば、選択肢4が正答となる。
【午前】 問題 43	正答が複数ある	正答は2と3である。 2と3のいずれの優先度が高いか判断できる情報が不足している。
【午後】 問題 38	正答が複数ある	正答は3、4、5である。 選択肢1および2は、Aさんに直接かかわっているため優先度が高いと判断できるが、選択肢3、4、5は現時点ではAさんに直接かかわっていないため、それぞれの優先度の低さを判断できない。
【午後】 問題 39	正答が複数ある	正答は2と3である。 選択肢2と3は、初動調査として同時に聞き取るべき項目である。 (参考) ・標準保健師講座3 対象別公衆衛生看護活動 P331、図12-1 感染症調査・対策の流れ（医学書院） ・公衆衛生看護学.jp 第4版、P366、表4-VIII-7 感染症発生時の対応（インターメディカル）
【午後】 問題 49	正答が複数ある	正答は2と3である。 成人期の生活習慣病対策を進める際に、非就労者も含むA市全体の情報を得ることが目的であれば3が正答となり、A市の小規模事業者の情報を得ることが目的であれば2が正答である。 (理由) 高齢者医療確保法では、保険者と後期高齢者広域連合が都道府県ごとに「保険者協議会」を組織し、①特定健診・保健指導の実施に関する保険者間の連絡調整、②保険者に対する必要な助言又は援助、③医療費などに関する情報の調査及び分析の業務を行うことが規定されている。（厚労省データヘルス医療費適正化対策推進室：保険者協議会について）

II その他改善を要する問題

問題番号	理由	コメント
【午後】 問題 16	設問の改善が必要	正答は3である。 選択肢1の「職業性疾病」は医学用語では同義で用いるため、設問に「労働安全衛生に関する法律に基づく」の文言が必要である。
【午後】 問題 41	設問の改善が必要	正答は3である。 汚物処理方法の指導は、8月5日の立ち入り調査の時点で実施するため、8月6日の設定では不自然であり、工夫が必要である。

III 全体について

1. タキソノミーⅠは43問(39.1%)、Ⅰ'は23問(20.9%)、Ⅱは38問(34.5%)、Ⅲは4問(3.6%)であった。説明文付の一般問題と状況設定問題を中心に、タキソノミーⅡとⅢの出題が4割を占めており、前年に引き続き良い傾向であった。
2. 良問が多かった。
 - 2-1. 状況設定問題では、知識を基に判断を求める問題や、問題解決力や実践力など保健師活動を問う。
例えば、示された情報を読み取り、事例の健康問題を判断し、支援方法を考えさせる問題（午前：問47・48）、結核を題材に、ハイリスクに関する知識や支援方法の判断を問う（午前：問44・45・46）、母子健康手帳情報を含む事例の提示により、ハイリスク家庭への支援方法や優先度を判断させる問題（午前：問41・42・43）などである。
 - 2-2. 一般問題では、適度な説明文を付した問題が複数出題されたことで、思考力や判断力を問う良問題が増えた。
3. 出題の偏りがみられた。
 - 3-1. 設定する地域が小規模自治体や農村部に偏っていた。学生の実習環境を考慮し、大規模自治体や都市部もバランスよく出題することが望ましい。
 - 3-2. 疫学の出題が多い一方で、昨年に比べ保健統計の出題が少なかった。疫学も保健統計も、保健師として修得しておくべき重要な知識であるため、バランス良い出題が望ましい。
 - 3-3. 午後に比べ、午前は解答に時間を要する問題が多かった。午前、午後の解答時間のバランスに配慮を希望する。